

みたけ夢だより

11月号

横浜市立みたけ台小学校

横浜市教育情報ネットワーク【Y・YNET】公開サイト <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mitakedai/>

自己肯定感を育む

校長 長尾 晴美

日本の高校生が、他国と比較して生活や意識にどのような傾向が見られるのかを調査した報告書があります。(高校生の生活と意識に関する調査報告書—日本・米国・中国・韓国の比較—：国立青少年教育振興機構 2015年) 自分について、「人並みの能力がある」「体力に自信がある」「勉強が得意な方だ」という項目に「そう思う」割合は低く、「自分はダメな人間だと思ふことがある」といった項目へ「そう思う」割合は高い、と言う結果が出ています。いわゆる自己肯定感を持ち続けることの難しさが、高校生にも表れていると言えます。

全力で今できる力を出すこと、友達に声をかけ励まし支え合って仲間作りをしていくこと、そこから、自分や友達のよさに気づき、ありのままの自分を認め、さらに向上していこうとするたくましさやしなやかさを育てていくことが求められます。

今回の創立40周年記念運動会では、どの学年、どの競技やどの演技にも、たくさんの温かな拍手と声援をいただきました。大きな行事である運動会に向けた取組は、子ども一人ひとりの心の中に、自己肯定感につながる達成感や自信という「金メダル」となって残った事と確信します。

当日まで、少しでも自分を高めようと日々努力する姿は、ときにつらく、悩みながらの前進もあったことでしょう。運動会練習日の終盤、どの学年もたてわりのペア学年を中心に、お互いの演技を見合う場面をもちました。自分を見ていてくれる人がいる、そんな意識をもって交流する様子からは、意気込みやみたけの伝統を、メッセージとしてお互いを感じ合っているように見えました。

運動会当日に40周年を祝して行われた聖火リレーでは、これまでの卒業生代表の8名の方々が最終走者の本校代表児童2名に、メッセージと共にバトンをつないでくださいました。ペア学年で伝わったメッセージと同じように、40年間続くみたけ台小にかかわる全ての人たちの願いがリレーされてつながっているように思われました。これからもしっかりとバトンをつないでいけるよう教職員一同力を尽くして参りたいと思います。

最後になりましたが、温かい拍手と共にご参観いただいたご来賓、地域の皆様、前日準備や後片付けのお手伝いをしてくださった皆様、新生みたけくんの誕生に尽力くださった方々、練習から支えていただいた全ての保護者の皆様、例年の様にあっという間に看板やテントやゴールの移動に力を貸してくださったおやじの会の皆様に、深く感謝申し上げます。

